

## ボリビアから帰ってきました

中沢 智恵

(17-1, ボリビア共和国, 小学校教諭, 長野市立篠ノ井西小学校長)

---

こんにちは。午後の1番最初から宜しくお願いします。最初になんとかアングスチックだね、服装が変ねと思われている方もいるようなので、先に紹介させていただきます。ボリビアの小学校で活動していたんですが、その任地を去るときに学校の先生たちがくれました。その先生たちとのことを今日は紹介させていただくので、着てきました。宜しくお願いします。

内容をご覧の通りです。最初に任地の配属先の概要について少しだけ説明させていただきます。任国はボリビア共和国で、任地はスクレ市というところで憲法上の首都ということになっています。ややこしいんですけど、実際の首都は別のところにあります。そのことでスクレ市は今かなり荒れていて、町から警察官が一人もいなくなるという、学生と警察のぶつかり合いがあつて警察がここで命の危険があるということでも市から警察がいなくなつてしまい、スクレ市の刑務所から囚人が逃げたということになつたそうです。～に政情も不安定な国です。道路封鎖とかストライキとかいうのも頻繁にあつて学校がお休みになることもありました。でもそういう不安定なことやちょっとおっかないなということを補うに余りあるほどの魅力的な国でした。

ボリビアはどこにあるのというところですが、ここから先は少しボリビアについて知っていただくために今いる学校で朝の全校集会のときに子どもたちに対して紹介したものをみていただきたいと思います。クイズにしていたんですけどみなさんはもうレジュメが手元にあるので、答えはみんな知っているということでどんどん進みます。ボリビアは南アメリカ大陸にある海のない国です。これがボリビアの国旗です。真ん中にはコンドルやリャマというボリビアにいる動物が描かれています。ボリビアという国は、首都は富士山より高いところにあります。広さは日本の3つ分あるんですけども、住んでいる人は日本の15分の1という少ない人たちが暮らしています。ボリビアクイズの時間です。というふうに学校でやったんですが、低学年問題、ボリビアはいま朝である。これは朝8時半くらいの全校集会だったのですが、こんな感じで。高学年問題、ボリビアでは富士山より高いところにも町があり、たくさんの方が暮らしています。空気がうすく、酸素が少ないために起きることはどれでしょう。まあ皆さん答えがわかっているので先に進めます。これは実際に自分が経験してクイズがつくことができたのかなというふうに思っています。実際にサンポーニャとかケーナとかそういう笛を吹いていたら頭がガンガンすることがありました。こんなようなものも見つけました。実際にこの右側にあるのは村の小学校の校庭にあるサッカーゴ

ールです。トイレのほうはちょっともっと山のほうにある村にありました。でももっと普通の村はトイレのないところが多いので、あるだけいいのかなと思います。

配属先のほうに進みます。配属先はスクレ市の公立のバレンティン・アベシア小学校で1年生から5年生まである小学校に行きました。4クラスか3クラスで中規模の小学校です。スクレ市の本当中心に位置するところで、校長先生がものすごく意欲的な女性でした。PROMECAパイロット校のひとつであるんですけど、最初に配属されたときには全くパイロット校になるということは思いもよらず、調整員の方からも、この学校はパイロット校にはならないから、パイロット校じゃない学校でプロジェクトとどう関わるか頑張っておと言われていたので、パイロット校になったときにはお互いにびっくりしてしまいました。PROMECAということについて少し説明させていただきますと、これはボリビアの政府と教育省とJICAと一緒にやっているプロジェクトで、教育の質向上プログラム、難しいことっていますが大切にしていることは、お互い事業を見合いましょう、教師同士で学びあう研修を大事にしまししょう、学級という温かい仲間づくりを大切にしまししょうというものだ解釈しています。このPROMECAとその隊員がいる学校現場で期待されていたことは教員経験の共有、と言う部分です。先生たちは、ボリビアの場合は昇級試験があつて他人の技術は私の技術、他の人にあげるなんてもったいないという考えがあつたので、先生たちは授業を見合うとか自分が作った教材を貸そうとか、そういうことはあまりありませんでした。ちょうど自分が途中で思ったこととこのPROMECAで期待されていたことが一致したので、その部分だけ取り入れて活動を続けました。あとで写真も出てきますが、学校は2時から6時までの午後だけ学校で、1つの校舎を3つの学校が使っていました。これが学校の入り口なんですけどこんなふうに使っていました。自分は午後のアベシア小学校のところだけいたんですが、折角だからと思い、夜まで居座って音楽学校で笛を習っていました。これが学校の全景です。結構こうゴムとびなんかして遊んでいる子がいてゴムとびがはやったんですけど。男の子たちはメンコとかをして遊んでいたので似ているなと思っていました。ここの学校でどんなことを期待されていたかというとなかなか難しいことがいっぱいあったんですが、行く前は教師に対してどんなことするんだとか、カリキュラム作ったりすごいことに関わるのかななんていうふうに勘違いして選びました。ここに行く前、派遣前訓練というとても刺激をたくさん受けていた期間があつたのですが、そのときは年代も職種も出身の地域も全然違う人たちとの共同生活で本当にいろんなことを学び、人とのつながりもできていい機会だったなと思いました。

ここからは発表に入るんですが、活動中と現地で携わったことについて前中後にわけて紹介させてもらいます。現職のまま行つたので、本当にこうやって改めてみるとちょっとしかいなかったんだな。7月に赴任したんだけど8月の半ばまでは現地での語学訓練があり、ボリビアの場合はもう11月にテスト期間に入ったので、実際には8、9、10のその3ヶ月しか授業がありませんでした。12月と1月は夏休みだ

ったので学校はお休みでした。そして真ん中の頃、2, 3, 4, 5, 6, 7月とあるんですが、まあこのへんも冬なので冬日課になり授業時間が短くなっていました。後半はもう3月になったら帰国準備で大忙しで、3月は5日間くらいしか学校に行ってません。なので本当にあつという間だったなと今思います。最初の頃はひたすら授業観察をさせてもらい、それぞれの先生方が持っている経験や技術を学んでいました。その頃はまだ日本のやり方を伝えるんだとか教材をたくさん作って使ってもらおうとか、先生たちと算数に入ったんですがTTでいこうなんていうふうに思っていた頃です。そんな頃にちょうど隣の村に、日本からの算数セットがダンボール7箱分ドーンと届けられて、そこにいた村落隊員から、算数セットがきたんだけど全く使い方がわからないから使い方の研修会をしてくださいと言われ、近所にいた隊員、学校関係の隊員4人と研修会を実施しました。行って2ヶ月で話だったので、すごいびっくりというか、もうスペイン語もしどろもどろでえらいことだったんですが、度胸付けにいい機会をもらったなと思いました。また、これから先どんなことをしていったらいいかわからないということもあえい、いったいこの人たちはどのくらい算数ができるのだろう、どこが苦手なんだろうと思い、学力テストもその現地にいた先生や先輩隊員たちと一緒に行いました。これは算数セットの教材を紹介している、見覚えのある数え棒のところなんですけど、結局算数セットの中にある教材の中では数え棒とおはじきが現地にあるもので対応できるし、使いやすいなというふうに思いました。洗濯ばさみでとめてるのは磁石が使えない黒板だからです。ぺたっと張り付くような便利なものはありませんでした。統一テストを実施して、どうやら分数が苦手みたいだよ、じゃあ分数関係の教材を作ったり導入の場所のモデル授業をして研修会をやるかなんていうことを思っていたのですが、みんな学校も忙しいし休み中にやるかなんて言っていたんですけど、全然人が集まらずなんで休み中にやるんだというふうな雰囲気だったので、それはたち切れになってしまいました。そして新しい年になり、難しいことはですね、やってもどうせ日本人だからできるんでしょみたいに言われたこともあり、どうやら日本のことを伝えようというのは大きな思い違いだったんじゃないかとようやく気づくことができました。そしてこの頃はお手軽な教材の紹介、それも押し売りのように授業に持って行って生先生、今日授業でこれ使ってみたいんですけど、今日時計の勉強ですよ、これ使っていていいですか、みたいなかんじで押し売りで教材を紹介したこともありました。さらにすごい素敵な授業をしている先生たちが多かったので授業を見合う会をやりましょうよという提案をしてました。でも最初にお願ひしますって言いに行った先生は、人にいろいろ言われるのが嫌だから、みんなに見てもらうなんて怖いから嫌々と言って、最後の最後にはやって下さったんですけど、結構最初の方はいろんな人に拒否されてました。大きなのではなく小さな研修会を実施していたそうです。ようやく新しいことや日本のやり方を伝えるなんてことはせずに、先生たちの持っている今の経験や技術を共有するための媒体になりたいと思うようになったそうです。こんなような教材を紹介しました。右下でやっているのは

百マス計算です。30人の職員の中でこれならできそうだなと思う人が1人でもいたらラッキーだし、授業に取り入れてくれる人がいたら超ラッキーみたいな勢いでやっていた頃です。雨が降ったりサッカーの試合が重なると参加者は4人とか5人とかになっちゃいます。でもわかりやすいお得感を大切にして研修会をしました。そのころ専門家の方に、とにかく失敗しなさいと、失敗してみせろと言われ、そうかそうか私は同僚としてきているんだということを改めて認識し、モデル授業をするようになりました。そのころ先ほど紹介させていただいた PROMECA というプロジェクトとのパイロット校になってしまい連携が始まりました。派手な教材を作ってこんな研究授業をしているときに、授業の計画や指導案作成と教材作りとか研究会への参加をさせてもらいました。また学級を大事にしていきたいということもあったので、学級目標をつくるというのちょっとだけお手伝いさせてもらいました。ポリビアの先生たちの教材作りは上手だな、見せ方がうまいなというふうに思いました。こんなふうに紹介したものを先生方が自分なりにアレンジしてくださっているのを見たことは本当に嬉しいなと思いました。端っこは割り算らしいんですけどこれ無理があるなど、あまりはないみたいです。でもこんなふうに使ってもらえて本当に嬉しかったです。あとは折角日本人だったので日本の遊びもこんなふうに紹介してきました。活動しているときに日本のことをいっぱい聞かれたんだけど、日本のことを紹介できるツールが自分の中にすごい少なくてちゃんと日本のことを知ることが大事だったなと思いました。あとは所属先の異動しそうな方と連絡を取り合う、誰と連絡を取るのかちゃんと連絡をあなたとねという確認をしていけばよかったなと思いました。どんなことができたかなと思ったのですが、ゴミをゴミ箱に捨てるということがずっと言い続けたことだったかなと。これだけだったかなと思います。やっぱりこのような経験をさせてもらったことがものすごい感謝だったかなとそれだけなんですけど、確かに辛いこともあったし何でこんなことやってるのというふうに辛くて悲しくて泣けてくることもあったんですが、今はいいことばかりが残っているかなと思います。こっちは日本の学校との関わりで前の学校にも今の学校にもポリビア行ってきましたが有難いです。自分はすごく変わった、自分が変わったというかまわりを見る目がちょっと変わったことと、あと子どもに対してもそうだし対応する力が幅が広がったかなというところが自分自身で思っています。長々としゃべってしまいました。以上で終わります。ありがとうございました。